



第56回 体育祭

八月二十三日(日)に体育祭練習二十五日に班の結団式を皮切りに本格的に九月十二日の体育祭に向けての準備がスタートした。三年生をリーダーとした応援練習、一・二年生の集団演技、各係の準備と着々と進んでいたが台風のため、九月七日が臨時休校となり後の日程を心配したが、先生方・三年生がリードしてくれたおかげで九月九日の体育祭予行、前日の会場設営までほぼ予定通り整えることができた。

三年ぶりに本校グラウンドで実施する体育祭、高鳴る胸の鼓動の中、絶好の秋晴れの躍動感溢れる生徒達の堂々とした入場行進、いよいよスタートした。倒れるまで走った「一五〇〇m」「二〇〇m」「二〇〇m」「八〇〇m」に出場した生徒達、勇猛果敢な男子生徒の「騎馬戦」「棒倒し」。校内一の力持ちを競った「がんばっ



島高だより 第3号
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部



体育祭優勝班生徒の声
六班 松本 晃
僕たちにとって最後の体育祭、学校でできて良かった。競技の部で優勝できたのは班長を中心に班員みんなが一つになって、頑張ったからだと思います。このような素晴らしい体育祭ができたことを心から感謝します。

応援合戦優勝班生徒の声
二班 大槻 卓矢
高校生活最後の体育祭が終わり、振り返ってみると、多岐にわたる班のみんなをまとめるのは、本当に難

てふんばってそして男も勝る「女の意地」。集団演技では一年生が徒手体操・組体操・ダンスゲーム、二年生男子による力強く毅然とした「集団行動」を披露。運動部活動生徒の入場。本校運動部の誇れる選手達。午前の部終了。

午後は各班、趣向を凝らした応援合戦。この日ために三年生を中心に毎日練習・準備に明け暮れたその成果を発揮する時がきた。応援時間四分間。各班とも汗と涙の結晶が凝縮されていて、観客の皆さんも満足していた。結果的には、以外とシンプルなお祭り好評だった。それからはスウェーデンリレ、二年生女子による「集団の華(ダンス)」と続いて班別対抗リレ。各班から選ばれた男女各十人のスプリンター達が力の限り走っていた。

プログラムの最後は島原高校体育祭、この種目なしでは語れない全生徒・職員による「サークル」活動。応援団の指揮により一斉に肩を組みかけ声、そして応援歌。感動のあまり涙する者、言葉にならない。閉会式小松PTA会長様の万歳三唱をもって全て予定通り終了。

「伝統の中に新たな挑戦」生徒達が実に爽やかに実践してくれた体育祭、島原高校のすばらしさをあらためて実感させてくれた体育祭でもあった。



しいと実感しました。なかなか自分の思い通りに進まなくてとても不安でした。でも他のリーダーや、クラスの人々がいろいろアドバイスしてくれたりして本当に助かりました。おかげで自分もプラスに考えられるようになりました。一・二年生もしっかり動いてくれるようになりました。

そして、本番、緊張もあつたけど、今まで一番いい演技をみんまでやれたと感じることができました。結果として、応援の部は優勝を勝ち取ることができました。それまでの過程で多くのことを学べたと思います。今回の体育祭は、三年生全員にとってきつと忘れられない思い出になったと思います。

最後に、応援・協力してもらった人達に本当に感謝します。ありがとうございました！



国総体04 でも本校生徒が感動を与えてくれました	ゆめ絵巻に続き中
剣道	男子団体 三位
	女子団体
	決勝トーナメント
	一回戦敗退
ソフトテニス	男子団体
	一回戦敗退
弓道	男子団体
	予選敗退
ダンス	個人
	西田・廣瀬
	一回戦敗退
	本由
	一回戦敗退
	松本・宮崎組
	一回戦敗退
	平川・永田組
	四回戦敗退

文化祭

常任委員長の言葉
今年は例年に比べ短い準備期間で、とてもいい文化祭ができたと思います。文化祭後の気持ちの切り換えはさすが島高生ですね。来年は三年に一度の「青楓祭」です。行事が燃える島高生、一致団結して頑張りたいでしょう！

小文化祭担当(二年七組 上田明日美)
今回は準備がなかなか進まず、とても不安でしたが、全体がこれレベルの高いものとなりました。新企画も成功し、とても嬉しかったです。ご協力有難うございました。来年の大文化祭「青楓祭」もお楽しみに♪



文化祭

本年度の文化祭は「巻き起こせ!感動の嵐〜Culture Revolution 2004〜」をテーマとし、昨年度までの「文化祭発表会」から装いを新たに、「文化祭」と名称を変更して開催されました。その背景には、これまでも生徒会や文化部に限らず、家庭クラブや理科、一年の音楽選択者が参加してきたことと、生徒全員が参加できる学校全体の行事として位置づけたいという生徒会の強い願いがありました。

生徒会と文化部部長が集まり、小文化祭の方向性について意見を交わすことから準備を始め、全校生徒が感動を味わうことができるような構成やプログラムを考えました。文化部の発表や生徒会のイベント、全校合習に加え一般生徒からも展示作品を募集し、二年生のディベート選手権、一年生の福祉ボランティア体験のまとめなど盛り沢山の内容になりました。皆様のご協力のおかげで円滑な運営ができました。有難うございました。来年度は大文化祭ですので、更に充実した内容にしたいと考えています。



校長室から
柳川 伸一
残暑は厳しいものの、朝夕の涼しさと庭の彼岸花の姿に秋の気配が感じられるようになった中、去る十一月二日、第五十六回体育祭を行いました。台風十八号をはじめ心配された天候も回復し、爽やかな青空の下、多数の来賓と保護者のご来場を得て、三年ぶりに本校グラウンドで開催できました。

八班に分かれた生徒たちは優勝を目指し、競技・演技・応援にと手を抜くことなく全力で取り組み、観衆の皆さんを熱中させてくれました。逞しさの中にユーモア、可憐さの中に力強さ、そして島高生らしい知性が感じられた体育祭だったと思います。生徒たちも仲間の絆を感じ取り、素晴らしい感動を味わったことでしょう。

この感動を胸に刻み込んだ三年生は、いよいよ各自の夢の実現に向けて学習に全力で取り組む季節になりました。一・二年生たちも学習に部活動に中心となって励むときになりました。生徒諸君に「今宵れば花開く」の言葉を贈ります。実りの秋はすぐそこです。

ご家庭におかれましては、おまかせの励ましをよろしくお願い申し上げます。

第二学年から

雲仙合宿を終えて

本年度も島原高校の学力充実の重要な柱となる雲仙合宿が八月四日から十日までの六泊七日で実施されました。弱点科目強化などそれぞれの目標を立て、その目標達成のために日頃とは異なる環境の中で懸命に学習に取り組んでいました。合宿中は自学や質問の時間が確保されており、自己の計画に従って自律的な学習ができたと思います。また、六泊七日の合宿を通して、子供達一人一人が学習に対する姿勢や考え方、自己の限界まで学習に取り組む集中力と忍耐など様々なことを学び、感じ取ってくれたことと思います。

これから秋の深まりとともに、学習合宿で身につけた経験がきつと実を結ぶことと確信しています。本日の勝負はこれからです。自己の目標達成のために早朝から遅くまで頑張っている子供達の後ろ姿を見守り、応援をして欲しいと思います。

9月下旬の主な行事予定

- 24(金) 「人生の達人セミナー」講演会(10:00～島原文化会館)
- 28(火) 交通講話・生活安全講話

10月の主な行事予定

- 1(金)～6(水) 中間考査(1・2年)／学年末考査(3年)
- 7(木) 教育実習(3週間)開始
- 9(土) 土曜講座(3年)
- 14(木) 教育実習(2週間)開始、国体壮行式(朝会時)、全日音研(有明町)
- 15(金) 全日音研(有明町)
- 16(土)・17(日) 新人戦(ソフトテニス)、英検一次
- 18(月) PTA専門委員会・評議委員会(15:00～17:00, 会議室)
- 20(水) 演劇鑑賞会(午後)
- 23(土) 土曜講座(1・2年)、対外模試(3年)
- 24(日) 対外模試(3年)
- 25(月) 通知表発送(1・2年)
- 27(水) 教育実習終了
- 30(土) 対外模試・実力(1・2・3年)
- 31(日) 対外模試・実力(2・3年)

11月の主な行事予定

- 1(月) 創立記念日
- 2(火) 県高校駅伝
- 3(水) 文化の日 対外模試(3年)
- 6(土)・7(日) 対外模試(3年)
- 11(木) 通知表発送(3年)
- 12(金) 島南P秋季研修会(午後、九十九ホテル)
- 13(土)・14(日) 新人戦(レスリング)、英検二次
- 15(月) 期末考査時間割発表(2年)

生徒の声

○この合宿の雰囲気は机に向かう周りの仲間の姿を目に焼き付けて、今後の日常生活で頑張っていきたいと思えます。(四組 女子)

○苦手分野をたくさん質問し、質問の大切さを知りました。これからは、質問を勉強の一部とし、解らなくても克服できたと思う。(七組 女子)

○自分に今まで足りなかった集中力・根気ややる気がこの合宿でどんどん身に付いていったと思う。合宿を無駄にしないためにも下山しても頑張っていきたい。(八組 男子)



第二学年から

この夏、各大学でオープンキャンパスが実施されました。大学の研究活動や学生生活を知るには、絶好の機会であるオープンキャンパス。本校からは、



シールボルト大・長崎総科大・熊本大・九州大・長崎大の五大学に総勢二二六名が参加しました。新教育課程による大学入試制度の変更点や学部・学科の説明を受けたり、模擬授業体験や施設の見学などを行いました。生

第一学年から

徒からは、「国内でも最新の研究に触れることができて良かった。」今まで以上に大学への憧れも強くなった。といった感想を聞くことができました。大学生活を体験し、肌で感じることで、多くの刺激と新たな目標を持ち帰ることができた一日になったようです。



県下の全公立高等学校において実施される「一校一役運動」の一環として、一学年では、体験的な学習を通して思いやりの持った豊かな人間性と社会性を育てる目的で、近辺の福祉関係

理数科から

の施設との交流を実施した。七月二十一日・二十二日の両日にかけて、クラス毎に各施設を訪問した。施設は、デイサービスセンターや特別養護老人ホーム、重度障害者施設など多岐にわたり、交流内容もゲームや合唱等のレクリエーションや、施設における日常的な作業に汗を流すなど、さまざまであった。施設の方々のアドバイスや入所者の方々の心の触れ合いを通して、学校生活では得難い経験ができた。

理数科研修旅行を終えて

理数科主任 島田朋成

今年度の理数科研修旅行は八月一日～三日の三日間、大分の日本文理大学で実施しました。理数科研修旅行とは、一本校理科の三年間で物理・化学・生物すべての分野を実践的学習という主旨のも



と、大学の実験施設に赴いて、各分野の大学教授から直に指導を受け、実験・実習を行い、考察し、レポートにするという「大学生の研究」を実践する取り組みです。そこには、高校では得られない体験や感動があります。

今回も、文部科学省によるSPF(サイエンスパートナーシッププログラム)の支援を受けて、ロボットやエンジン、電気自動車などの機械系、また、太陽光発電や風力発電などのエネルギー系の実験にグループに分かれて取り組み、大学教授や大学院生のいろいろなやりとりの中で、それぞれに何かをつかんでくれたものと思います。

また、この研修のもう一つの目的は、大学とはどんなところかを実感することにあります。理系の大学は多種多様で、同じ工学部でも研究内容はそこに所属する教授により全く異なっています。将来、理系で活躍しようとする生徒にとって、そのような仕組みを知り、実際に肌で感じる経験することは自己の進路選択をする上で大変貴重なことであると信じます。実際に、楽しかったというだけでなく、そのような経験が来たことに意義を見いだした生徒も少なからずいたようです。そういう意味でも成功だったのではないかと思います。今回は物理・化学分野の研修でしたが、生物分野も含め、今後もこのような取り組みは続けていく予定です。

進路から

「いよいよ入試が始まる」

体育祭も大盛況のうちに終わり、島高生の心意気と活力が大爆発する様を見ることができました。さて、九月後半になると一気に受験シーズンが始まります。一部の推薦入試はもうスタートしています。一般入試もあと四ヶ月もすると一番多い時期を迎えます。何よりセンター試験まであと二〇〇日ちょっとです。もう待たななし！いよいよ本番突入というところですね。小学校から教えて十二年間、その一つの答えを出すときがやってきました。

とはいえ、昨今の入試制度変更の流れの中、生徒たちも不安を感じつつ勉強に励む日々を送っているようです。もちろんそれは保護者の皆様におかれましても大きなものと思います。何か少しでもわからないことがありましたら、遠慮なく担任や進路指導部へお問い合わせください。一学期中に二回、二年生全員の進路を検討する会議を開きます。その場で学校の総力を挙げ、生徒一人一人に適切な進路の提案をしていこうと考えております。その結果を基に面談で進路の相談を話していこうと思っておりますが、それ以外でも随時御相談を受け付けておりますので、まずはお電話でどうぞ。三年生の残りの高校生活が、よりよい進路を実現できる力になりますよう願っております。